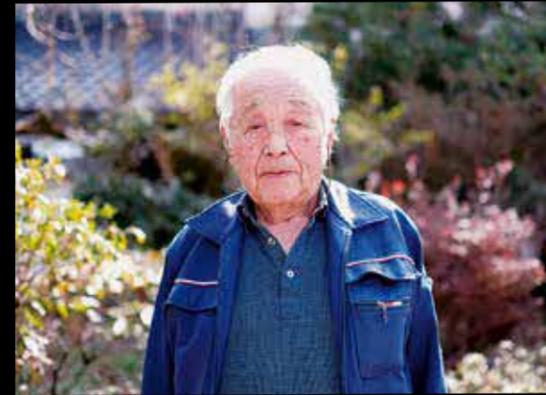


今村岩戸神楽

「守り継がれる
伝統と継承への願い」

「今村岩戸神楽」は、宮崎県諸塚村七ツ山から養子にきた人を通じて伝えられ、下長崎との交流を通じて受け継がれてきた伝統芸能です。最盛期には約20名が活動していました。平成26年以降、人手不足により活動が難しい状況に。現在はわずか4名で存続の危機にある中、60年以上神楽に携わ



▲代表 田上 厚雄さん

る代表の田上さんは「もう一度復活させたい」と想いを語ります。田上さんが特に思い入れのある演目「杉登」は、舞の途中で豆腐を太刀で切り、見物人に振る舞う独特な舞が特徴。他地域や若い世代へ継承を願うとともに、「途絶えることなく続いてほしい」と強い思いを寄せています。



▲舞の歌詞を書き記したもの



九州山地神楽祭り



神楽について

日本を代表する神事芸能で、神々の来臨や神託を願い、歌や舞を伴う儀式を行います。古事記や日本書紀に書かれた、天照大神が岩戸に隠れてしまった話で、天鈿女命が天照大神を誘い出すための舞が、神楽の始まりとされています。

主に、宮中で行われる御神楽と民間で行われる里神楽に大別され、全国に4,000以上の神楽が存在すると言われています。

熊本県内の神楽

熊本の神楽は大まかに4つに分けられ、県北・県央の平野部に分布する「肥後神楽」、球磨郡の「球磨神楽」、阿蘇郡に点在する大分県大野系の「岩戸神楽」、東部県境に点在する宮崎神楽の影響を受けたものが県内に分布しています。



▲熊本県内の神楽分布図

@提供：熊本県文化課